

# KOMAZAWA

SEMI FINAL

2004.7.9

# × MEIJI

この試合、チームを決勝に導く貴重な2ゴールをあげた原 (撮影・野澤俊介)



サイドハーフで起用され、明大のサイド攻撃を見事封じてみせた塚本

中盤の底で再三、明大の攻撃を封じた菊地。シンプルなプレーで攻撃のリズムを作った



# 4年連続で決勝の地へ!

## 駒澤大学2-1明治大学

### 関カレでの雪辱晴らす勝利!!

#### FW原、久々のゴールで勝利呼び込む

総理大臣杯準決勝。この試合は駒大にとって、ただの一試合ではなかった。相手は関東選手権準決勝で屈辱の敗戦を喫した明大。「雪辱を晴らしたい」(秋田監督)。天皇杯出場権獲得、そしてリベンジを果たすべく、選手たちは最高のモチベーションで試合に臨んだ。

序盤駒大はいつものように前線の赤嶺、原の2トップにロングボールを合わせ明大ディフェンスの裏を突く。一方の明大は関東選手権時と同様、両サイドを使った速い攻撃を仕掛けてくる。決定機を演出されるもなかなかのぎきり、両者一進一退の攻防を繰り返す時間帯が続く。

その均衡が破られたのは18分。太のゴールキックを明大DFがクリアミス。すかさず原が抜けだし右足で先制点をあげた。このゴールで勢いに乗った駒大はこの日サイドハーフに起用された塚本が果敢に攻撃参加。「うちがサイドから攻撃が機能していなかった」(鈴木祐)と

いうように明大のサイド攻撃を封じてみせた。

後半に入ると5分、小林亮が相手MFのボールを奪い取り、赤嶺、原とつなぐ。パスを受けた原はリフティングで相手をかまし、豪快に蹴り込み追加点をあげた。さらに62分、駒大有利の展開が訪れる。明大のエース松ヶ枝が2枚目の警告で退場。誰もが駒大の独壇場を予想した。しかし、「相手が一人減って油断してしまった」(鈴木祐)駒大。試合を決定づける3点目を奪えぬまま時間だけが過ぎ、逆に試合終了間際、明大にゴールを許してしまう。「3点目を決めていたらもっと楽になっていた」(塚本)。駒大はその後明大の粘り強い攻撃に苦しみながらも逃げ切り、試合終了。4年連続、決勝の舞台に進むこととなった。

勝利すれば、前人未踏の大会3連覇。その偉業を達成することは決してたやすいものではない。「燃えてやります」(秋田監督)。90分間、完全燃焼したもののだけが、その栄光を手にする。(永峰 綾)

7月9日 18:15 長居第2陸上競技場

駒大 2(1-0) 1 明大  
関東第3代表 (関東第1代表)

得点者(アシスト)

【駒】18分:原 一樹  
 【駒】50分:原 一樹  
 【明】89分:斉藤 優 (栗橋庸介)

KOMAZAWA	MEIJI
GK①太 洋一(4)	GK①古川崇嗣(3)
DF④小林 亮(4)	DF②福田健介(2)
DF⑤鈴木祐輔(4)	(56分④伊野 弾(4))
DF③大澤陽介(4)	DF③金 大慶(2)
DF⑬筑城和人(2)	DF②川野 毅(4)
MF⑨菊地光将(1)	DF⑨高杉亮太(3)
MF②塚本泰史(1)	MF③小川佳純(2)
(85分⑩小野里銀児(1))	MF⑨斉藤 優(9)
MF⑬鈴木亮平(3)	MF⑭栗橋庸介(3)
(59分⑩東平大佑(1))	MF⑮森 賢一(2)
MF⑥中後雅喜(4)	MF⑯日高拓磨(3)
FW⑨赤嶺真吾(3)	FW⑱松ヶ枝泰介(4)
FW⑪原 一樹(2)	FW⑰山本 剛(2)
S U B	(78分⑳吉田陽平(3))
GK①牧野利昭(3)	S U B
DF②桑原 靖(3)	GK⑭関 憲太郎(1)
DF⑮廣井友信(2)	DF⑱石井秀典(1)
MF⑧中嶋祐太(2)	MF⑯藤浦健人(3)
MF⑰岩本哲也(4)	FW⑲鳥丸太作(4)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	吉見 章

警告(C)/退場(S)

【明】14分:福田健介(C)、48分松ヶ枝泰介(C)  
 62分:松ヶ枝泰介(C)、62分松ヶ枝泰介(S)、  
 ※警告2枚のため退場  
 64分:山本 剛(C)、78分斉藤 優(C)、  
 89分:金 大慶(C)  
 【駒】36分:鈴木祐輔(C)※累積2枚のため次戦  
 出場停止  
 56分:大澤陽介(C)、58分:中後雅喜(C)

【シュート】11:10(枠内シュート)5:2(決定機)3:2(CR)21:8  
 【CR】7:3(PK)0:0(直接FK)17:13(間接FK)2:3(OS)2:3  
 【主審】奥谷彰男【観衆】約300人

※上記データは全て左側の数字が駒澤、  
 枠内シュート 決定機は本誌記者による